

## 文部科学省委託事業 令和元年度沖縄県「がん教育総合支援事業」 事業報告

## 1 趣 旨

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深める必要があることから、本県では文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」を実施する。

## 2 事業内容

- (1) がん教育沖縄県連絡協議会の開催
- (2) がん教育研修会の開催
- (3) がん教育教材検討委員会
- (4) モデル校による取り組み

## 3 実施内容

- (1) 連絡協議会について（年2回開催）

がん教育の推進を図るための「がん教育に関する計画」に対し指導・助言を行う

ア 構成員：医師、がん患者会、県保健医療部、モデル校管理職、モデル校授業者  
総合教育センター研究主事、県保健体育課指導主事

イ 第1回連絡協議会（がん教育の推進に向けた計画検討）

日時 令和元年7月26日（金）10：00～12：00 県庁第1階 会議室

- 「がん教育に関する計画の作成・検討」
  - ・学校におけるがん教育の課題の把握
  - ・がん教育に関する支援体制と方針の協議
- 「がん教育研修会」について
- 「がん教育教材検討」について
- 「がん教育モデル校」における取り組みについて

ウ 第2回連絡協議会（がん教育に関する計画の検証・成果報告）

日時 令和2年1月22日（水）

- 「がん教育研修会」について
- 「がん教育教材検討会」の成果について
- 「がん教育モデル校」における取り組みについて
- 効果の検証について

- (2) がん教育研修会について

学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動が出来る児童生徒を育成し、がん教育を進めていく。

教職員、外部指導者を対象にした「がん教育研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方について研修を行う。

ア 日時及び会場

令和元年	8月20日（火）	13：30～	八重山合同庁舎5階	参加者	31名
令和元年	8月27日（火）	9：30～	宮古教育事務所5階	参加者	21名
令和元年	10月30日（水）	13：30～	県立総合教育センター	参加者	77名

イ 対 象

小・中・県立学校の保健体育担当教諭、保健主事、その他の教職員  
各市町村教育委員会担当主事、各教育事務所担当主事、医師、学校医、がん経験者等

## ウ 内 容

(ア) 行政説明 県教育庁保健体育課

(イ) 講義 「学校におけるがん教育の実際」

ーヘルスプロモーション実践事例から学ぶー

講師 日本女子体育大学 体育学部スポーツ健康学科教授

助友 裕子 (医学博士)

### (3) がん教育教材検討委員会 (年3回)

がん教育教材の効果的な指導方法を検討し、指導参考資料の作成を行う。

ア 構成員 モデル校授業者、総合教育センター研究主事、中学校保健体育科教諭  
高等学校保健体育科教諭、保健体育課指導主事

## イ 日時及び場所

○第1回がん教育教材検討委員会 令和元年 8月30日 (金) 県庁4階

○第2回がん教育教材検討委員会 令和元年10月21日 (月) 県庁13階

○第3回がん教育教材検討委員会 令和元年11月27日 (水) 南部合同庁舎

### (4) モデル校による取り組みについて

中学校、高等学校のモデル校において、「がん教育公開授業」を開催し効果的な指導方法の検討と授業モデルの普及、指導参考資料の作成を行う。

## ア 県立向陽高等学校の取り組み

(ア) 事前事業 2学年集会での「がん教育」

(イ) 公開授業 令和元年11月13日 (水)

○参加者 全校種教職員 (教諭、養護教諭、保健主事等) 23名参加

○単 元 科目保健 第1学年 生活習慣病とその予防

(ウ) 事後事業 保健委員会による展示

## イ 八重瀬町立具志頭中学校での取り組み

(ア) 公開授業 令和元年12月18日 (水)

○参加者 全校種教職員 (教諭、養護教諭、保健主事等) 29名参加

○単 元 保健分野 第3学年「(4) 健康な生活と疾病の予防」

イ生活行動・生活習慣と健康

(イ) 準備検討会 令和元年12月11日 (水)

## 4 他機関との連携等

### (1) 沖縄県学校体育研究発表大会でのがん教育の実践発表・授業研究

ア 日時 令和元年11月29日 (金)

イ 場所 県立八重山商工高校 石垣市立白保中学校

ウ 対象者 小学校教諭、中学校・高等学校保健体育課教諭

### (2) 沖縄県がん診療連携協議会、同小児・AYA部会への参加

### (3) 文科省主催研修会への参加

ア がん教育研修会

○日時 令和元年10月25日 (金)

○場所 京都府 京都ガーデンパレス

○参加者 県立向陽高等学校、八重瀬町立具志頭中学校 保健体育教諭

## イ がん教育シンポジウム

○日時 令和2年1月28日 (火)

- 場所 東京都 国立オリンピックセンター
- 参加者 県立向陽高等学校養護教諭 県教育庁指導主事

## 5 事業の成果

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、医療関係者等を含めた「沖縄県連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し、指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について理解を深め、県内への啓発を図ることができた。

### (1) 「がん教育」研修会

- ア がん教育に関する指導に携わる教職員ののがんに対する正しい知識と意識の向上、及び学校におけるがん教育に関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。
- イ 行政説明の中で、学校におけるがん教育に関する内容の位置づけについて説明し、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。
- ウ 日本女子体育大学教授 助友裕子教授による講義「学校におけるがん教育の実際ーヘルスプロモーション実践事例から学ぶー」より学校におけるがん教育の考え方、進め方について理解を深める事ができた。

### (2) がん教材検討会について

- ア 各校種、発達段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、新指導要領の全面実施に向けて、文科省作成の指導参考教材や県の推奨する健康副読本等を用いた、指導用参考資料を作成することができた。
- イ 新指導要領の全面実施に向けて、モデル校として保健体育の保健分野、科目保健として、実践の参考となる指導案、ワークシートの作成ができた。

### (3) モデル校による取り組みについて

- ア アンケート結果より（次ページ参照）  
生徒へのアンケート結果より、日本人の死因1位や、早期発見すれば治りやすいなどの正しい知識の理解において有意差がみられた。また健康な体づくりへの取り組みや、がん検診の受診、がんの治療法の決定、がん患者の生活の理解、家族との対話等の意識についても変容が見られた。逆にたばこを吸わないでいようとする意識に関しては変容がみられなかった。この結果についても、授業の課題と成果と捉えたい。
- イ 中学校においては保健分野での授業実践を行い、健康な生活と疾病の予防において、がんについて理解を深め、がんの治療、がん患者への認識についても学ぶことができた。
- ウ 高等学校においては、学年集会におけるがん教育の実施、公開授業、生徒保健委員会活動による展示等の事業を展開し、学校全体としての取り組みの実践事事例を示すことができた。

【生徒への事前・事後アンケート結果のまとめ】

1) がんの学習について

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

	[事前]	[事後]
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	89.9%	→ 97.3%
b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ（そう思う）	91.2%	→ 97.3%
2) 知識編 ※「正しい」「誤り」から選択		
a がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）	98.0%	→ 100%
b がんは進行すると、今まで通りの生活が出来なくなったり、命を失ったりすることがある。（正しい）	98.0%	→ 94.6%
c がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	41.2%	→ 76.2%
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）	96.6%	→ 98.6%
e 早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	75.0%	→ 99.3%
f 体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）	95.9%	→ 98.0%
g がんの治療法には手術しかない（誤り）*高のみ	90.4%	→ 97.3%
h がんの痛みは我慢するしかない（誤り）*高のみ	92.1%	→ 97.3%

3) 意識編

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

a 自分はがんにならないと思う（思わない）	46.6%	→ 53.7%
b 将来、たばこを吸わないでいようと思う（そう思う）	93.2%	→ 93.2%
c 日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	66.2%	→ 83.0%
d がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う（そう思う）	74.3%	→ 93.2%
e がんの治療方法がいくつかあるが、医師が決めるものである（思わない）	22.8%	→ 59.3%
f がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	32.5%	→ 50.4%
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	87.2%	→ 89.8%
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	64.2%	→ 83.0%
i 家族や身近な人が健康であって欲しいと思う（そう思う）	95.3%	→ 95.9%
J 長生きするためには、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	88.5%	→ 91.8%

6 課題

(1) 各学校の教育課程への位置づけの明確化

ア 令和2年から移行される新学習指導要領の中学校、高等学校には「がんについても取り扱うもの」と明記された。同解説書においても、中学校、高等学校では「理解させる」、小学校では「触れるようにする」という文言が示されている事を、全面実施に向けて周知する。

イ がん教育の目標を達成するためには、がんに対する正しい知識を保健体育の保健学習で身につけさせ、関連教科、特活等を通じて健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について実践していくことが必要である。まずは、体育・保健体育の保健学習を中核に他の教科と連携した指導（カリキュラム・マネジメントの視点）について、取り組みを継続して提案していくことが課題である。

(2) 外部講師の活用について

ア 本年度の第1の目標であるがん教育実施率の向上のためには、まずは教員による授業実践を推進しているが、平行して外部講師の活用についても研究を進めて行く必要がある。

イ 学校での外部講師の育成に向けた研修会等を、他部局とも連携し進めていきたい。

(3) 研修会等の充実と普及・推進

ア がん教育に対する教職員の不安感は大きく、がん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、保健体育科教諭、養護教諭への積極的な参加を呼びかけていく必要がある。またがん教育実施状況調査が行われる事を管理職へも周知する必要がある。

イ モデル校の取り組みを、できるだけ県内各地に偏りなく選定を行い、普及・推進していく。

7 令和2年度の事業計画について

(1) がん教育連絡協議会（継続）

(2) がん教育研修会（継続）

(3) がん教育教材検討委員会（継続）

【令和元年度目標】

- (1) 県内の学校におけるがん教育実施率の向上
- (2) 教職員・関係者等へのがん教育の普及・啓発
- (3) 県の推奨するがん教育教材の作成



【令和2年度目標】

- (1) 県内の学校におけるがん教育実施率の向上
- (2) 教職員・関係者等へのがん教育の普及・啓発
- (3) 効果的な指導方法の実践研究

【令和元年度主な取り組み】

- (1) モデル校教諭及び中学校・高等学校教諭、総合教育センター研修主事を中心とした教材検討委員会を設置し、がん教育における教材の検討
- (2) モデル校による公開授業
- (3) 教職員・関係者等への地区別「がん教育研修会」の実施
- (4) 県健康教育研究大会へでの実践発表



【令和2年度主な取り組み】

- (1) モデル校教諭を中心とした効果的な指導方法の実践研究委員会を開催し、モデル校で行う事業の検討を行う
- (2) モデル校による公開授業
- (3) 教職員・関係者等への「がん教育研修会」の実施
- (4) 研修会における実践発表
- (5) 外部講師養成研修（プログラム）の実施